

平成16年度総合型地域スポーツクラブ育成推進事業 先進総合型地域スポーツクラブ実態調査ヒアリングシート

【基礎データ】					
フリガナ					
クラブ名	エアークションスポーツクラブ				
活動地域	鹿児島都・道 府・県		始良町市・区 町・村		町内全域
市区町村の人口	45,231 名	クラブ設立年	平成14年	クラブ会員数	1,703 名
当該地域の小学校の数と児童数			8 校	2,876 名	
当該地域の中学校の数と生徒数			3 校	1,525 名	
主な活動スポーツ種目	卓球・バドミントン・バスケットボール・陸上競技				
フリガナ	イト ムラ	アキラ	クラブでの役職名		会長
クラブ代表者名	本 村	章			

【1. クラブの歴史】

(1) 創設年	平成14年8月3日
(2) 創設期における当該地域のスポーツの一般的な状況	<p>当町におけるスポーツ活動の実施状況は、体育協会・レクリエーション協会設立後盛んになり、県民体育大会などにも地区の代表として輝かし成績を収めている。また、スポーツ少年団・部活動においても青少年の健全育成を目的に多くの活動が盛んである。反面、スポーツ同好会のチーム数が20年前と比較すると減少傾向にあり、少年団・部活動においても児童生徒の減少のあおりを受けて単独でチーム編成が難しく、クラブチームで組織されたところもある。</p>

【2. クラブの一般的特徴】

(3) 過去3～5年ぐらいの会員数の推移（学校区別）					
・2000年	区・ 名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 名	
・2001年	区・ 名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 名	
・2002年	8 区・ 600名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 名	
・2003年	8 区・1,222名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 名	
・2004年	8 区・1,703名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 名	
(4) 活動種目の内容と数					
<p>バドミントン・卓球・ラージボール卓球・バウンドテニス・ソフトバレーボール・フットサル ターゲットバードゴルフ・フライングディスク・中高年らしく体操・健康運動教室・キッズママ 気功対極拳・武術対極拳・陸上競技・弓道・ウォーキング・中高齢者健康体操・エアロビクス アクアフィットネス・グラウンドゴルフ・ペタンク・ハンドボール・バスケットボール・囲碁 テニス・山登り・フォードンス 計27種目</p>					

(5) 活動圏域（校区等の特徴）

活動圏域：始良町全域及び町内8校区

校区等の特徴：へき地校区：過疎地域のため、子どもより大人の参加が多く見受けられる。
種目：ゲートボール・グラウンドゴルフ・バドミントン・卓球・野外活動
その他の校区：毎月第3土曜日9:00-11:00まで各小学校体育館・校庭を利用。
種目：卓球・バドミントン・ディスクッター・長縄とび・グラウンドゴルフ
ドッジボールなど（校区によって異なる）

(6) 定期的な活動内容

社会体育・社会教育・民間施設を利用して、24種目の活動が1週間をとおして毎日幅広い活動を実施している。1ヶ月2回（太極拳・キッズビクス・スナッグゴルフなど）から1ヶ月10回を超える（陸上競技・バスケットボール・ターゲットバードゴルフなど）施設及びコーチングスタッフにより活動回数が異なっている。

校区の活動は、(5)にもあるように、毎月1回第3土曜日・へき地地域は第3日曜日実施。

(7) イベント等の不定期的な活動の特徴

・どろんこ大会（7月25日）

休耕田を利用して、バレーボール・ドッジボール・フットサルを実施した。

・50kmウォーキング（8月20日～22日）

体力づくり・我慢強さを養う・異年齢間交流・夏休みの思い出づくりを目的に実施した。

・なんでもチャンピオン大会（10月10日）

大声大会・くつ飛ばし・まめ飛ばし・キックターゲットなど15種目を実施し、学年・男女別に認定証を交付した。

【3. キーパーソンの属性】

(8) キーパーソン（指導者）の人柄（さらりと特徴的なこと）

約200名を超える指導者（スタッフ）が子どもから高齢者・障害者のクラブ会員全ての方々に対して、会員の立場に立って指導・お手伝いをしている。これが、口コミによる会員の増加にもつながっているかと思われる。

また、各校区のスタッフも週5日制の受け皿の一つとして、青少年健全育成・地域の活性化のためにボランティアに近い状態で協力を受けている。

(9) なぜ故に総合クラブをつくろうとしたのか

始良町のスポーツを取り巻く現状を見た時、かねてスポーツをしている人はともかく、スポーツをしたくてもする機会がない、相手がない、競技スポーツではなく初心者でも年齢を問わず誰でも参加ができる総合型地域スポーツクラブを育成することで、体力づくりをはじめ健康づくり・仲間づくり・生きがいづくり・地域の活性化、ひいては高騰している医療費の削減にも役立つと思われる。

(10) そこには自分自身のスポーツ経験とどのような関連があるのか

総合型地域スポーツクラブを育成するうえで不可欠なことは、スポーツに対する理解が必要であり、自分自身が平凡ながら人並みのスポーツ経験を通して、スポーツのおもしろさ・楽しさ・満足感を会員とともに共感できる。

【4. クラブの意思決定機関】

(11) 創設メンバーの肩書き
・組織名：エアーアクションスポーツクラブ運営委員会 ・役職：会長・副会長・総務・広報部長，活動推進部長・指導者育成部長・事務局長・委員
(12) いつ、どこで
・平成14年8月3日 スポーツクラブ総会において承認
(13) どんな人たちによって
・スポーツクラブの理念を理解した団体・職業のメンバー
(14) どんな内容を決定しているのか
・クラブの活動報告，決算報告，活動計画，予算，規約，役員の承認について審議。
(15) 意志決定をスムーズにするための工夫
・事前に専門部で審議し，想定される質問を整理しておく。

【5. クラブの組織体制と財政規模】

(16) 組織体制の特徴と配置スタッフ数
・組織体制：クラブの運営を充実・発展させるために，運営委員会設置 30名 各校区の運営を充実・発展させるために，校区実行委員会 4～20名 ・財政規模：平成16年度当初予算 町補助金1,800千円・会費2,000千円・事業収入1,300千円 合計5,100千円
(17) 組織体制づくりにあたって当該地域において配慮したこと
・クラブの運営，活動状況などあらゆる情報が町内全域に発信できるように，各小学校区から2名づつ選出している。また，体育協会，レクリエーション協会との連携を保つため，代表1名づつを選出，コーチングスタッフ及び会員を若干名づつ選出し，それぞれの立場で貴重な意見をもらっている。

(18) 組織体制づくりにあたって工夫したこと（特徴点）

- ・幅広い団体，個人からによるメンバーで構成することにより，組織の充実を図っている。

(19) 会費及び財政規模とその支出内容（16年度予算）

ア）自主財源の獲得状況（会費や寄付金を含む）

- ・町補助金
- ・会費収入
- ・事業収入（自動販売機収入・イベント・受講料・その他）

イ）財政規模とその主な支出内容

- ・収入は(16)のとおり
- ・支出：（16年度当初）
諸謝金：1,000千円・旅費75千円・使用料640千円・消耗品費317千円
備品購入費120千円・印刷製本費100千円・通信運搬費50千円・委託料300千円
賃金2,300千円・会議費30千円・保険料230千円 合計 5,162千円

ウ）委託事業(行政等)の有無と今後の期待（指定管理者制度導入を見据えて）

- ・委託事業 無
- ・今後の期待：体育施設の委託事業

【6.クラブ理念の確立に向けて】

(20) クラブの目的と理念についての考え方

- ・近年の少子高齢化や生活の利便化により，日常生活の中から体を動かす機会や場が減少している今日，スポーツやレクリエーションの重要性がますます高くなってきている。
そこで，「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」に気持ちで，初心者から経験者，子どもから高齢者・障害者の方々が，自分の体力・年齢に合わせて青少年の健全育成と地域住民の生涯スポーツの推進を図るとともに，元気で健康な連帯感あふれる「生涯スポーツのまちづくり」に資する。

(21) 当該地域における当該クラブの位置づけ

- ・利益を追求する民間スポーツクラブと違い，誰もが気軽に参加ができる半官的な総合型地域スポーツクラブである。

(22) 当該クラブの将来展望（夢のようなもの）

- ・総合運動公園を拠点施設として，誰もが気軽に利用できるクラブを目指すために，活動内容の充実・施設の整備を図りながら会員を人口の7%以上を確保する。そのためには，
補助金なしで安定した財源の確保
スポーツ活動の精選
拠点施設となる総合運動公園の受託事業
文化活動事業の導入

【7.活動拠点の運営とその利用状況】

(23) クラブハウス・事務所の有無 有る場合はその概要（住所や所有権など）
<ul style="list-style-type: none"> ・クラブハウス……無 ・事務所……………有 概要：教育委員会保健体育課内に置く。 住所：鹿児島県始良郡始良町宮島町25番地 所有権：始良町
(24) 練習・活動拠点 当該地域における拠点施設の特徴(立地条件、所有権、運営主体など)
<ul style="list-style-type: none"> ・練習，活動拠点：社会体育施設・社会教育施設・学校施設・民間施設 ・立地条件：都市部に集中 ・所有権：始良町 民間施設は当該事業所 ・運営主体：始良町 民間施設は当該事業所
(25) 拠点施設の利便性とその矛盾（困っていること等）
<ul style="list-style-type: none"> ・利便性：公共交通機関による利便性はなく，自家用車が不可欠である。総合運動公園は特にアクセスがなく，「ふるさとバス」の巡回が望ましい。
(26) 当該地域における公的スポーツ施設（学校を含む）数
<ul style="list-style-type: none"> ・野球場 陸上競技場 多目的広場 テニス場 総合体育館（建設中） 弓道場 体育センター 船津公園 帖佐グラウンド 各小中学校8校

【8.関係団体との連携と協力体制】

(27) 小学校・中学校との連携（具体的に）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合型地域スポーツクラブを育成するためには，学校との連携が重要である。イベントやスポーツ教室開催や第3土曜日の活動においては施設の使用はもとより，児童生徒の入会受付からチラシの配布，校内放送による活動の案内など。
(28) 具体的な連携対象団体とその内容（人、金、事業等）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体：体育協会・レクリエーション協会・民間施設・スポーツ少年団・部活動 ・ 内容：指導者の派遣・イベントへの参加 ・ 金：謝金 ・ 事業：毎月の定期的な活動・講習会・イベント・スポーツ教室など
(29) 協力体制確立のための工夫と成功要因
<ul style="list-style-type: none"> ・ 協力体制を維持していくためには，クラブの理念・目的を理解してもらうことが重要である。そのためには，あらゆる機会をとらえて情報提供をしていく。
(30) 協力体制確立のためにやってはいけないこと（想定される失敗するケース）
<ul style="list-style-type: none"> ・ お互いの信頼関係で成り立っているクラブであることから，その関係を失うことがクラブの存続につながる。現在のところ想定される事案は見当たらない。

(31) 関係団体がクラブに協力・協働する際の具体的メリット

・魅力あるクラブを維持発展させるためには、関係団体の協力は不可欠であり、活動における指導を主に多面にわたるメリットが生まれる。

【9. 会員・指導者獲得のための事業の工夫】

(32) 会員獲得&指導者獲得のための工夫と成功例

・パンフレット、広報誌や会合など、あらゆる機会をとらえて会員の確保に努めている。また、会員からの口コミによる会員確保も多く見受けられ、これは活動の充実ならびに指導者の会員に対する指導力であるかと思われる。
・体育協会、レクリエーション協会に加盟している各団体がほとんどであり、今後も連携を保ちながら、指導者の確保に努める。

(33) 会員獲得&指導者獲得のためにやってはいけないこと（失敗例）

・クラブの運営は、会員による自主運営が望ましいことから、年々会員の増加による財源を確保しなければならぬため、活動のマンネリ化や指導者による対応のまづさを重点に考えないといけない。

(34) くじ助成等助成金・補助金によって行った事業・行おうとしている事業の内容

・卓球、バドミントンなど多種目の活動
・スポーツ用具の整備
・プロ選手、一流選手によるスポーツ教室の開催
・各種イベントや講習会の開催

(35) 助成金・補助金による事業の成果（予想される成果も含めて）

・クラブを活動するにあたり、スポーツ用具の十分な整備が図られたことにより、所期の目的が達成された。
・活動を支える指導者（コーチングスタッフ）に対する謝金の予算化が図られた。
・プロ選手によるスポーツ教室を開催することにより、感動を得るとともに競技力の向上が図られた。
・各種イベントや講習会を開催し、クラブのPRや会員確保が図られた。

【10. クラブ創設期・成長期の特徴】

(36) 創設期の組織体制と成長期の組織体制の違い

・創設期の組織は、設立までの時間的余裕がなく、一部の地域に偏った人選になったことから、成長期では町内各校区から選出する方法に改めた。

(37) クラブの運営状況が発展してきたその理由

・3年目を迎え、種目や会員の増加は図れてきているものの、財源問題や更新率の低下など山積している諸問題があり、決して発展しているとまではいえない。

(38) 成功したと思われる決定的な要因

- ・成功といえるか分からないが、文部科学省が目指している「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」の気持ちで、子どもから高齢者・障害者の方々が自分の体力・年齢に合わせて気軽にスポーツを楽しむことが出来る体制づくりは整ってきた。

(39) 今後、日本体育協会に対してどのような支援を望むか

- ・日本体育協会のみならず、この事業を打ち出した文部科学省に対しての要望として、クラブを立上げ長期にわたって運営するためには、それなりの財源はどうしても不可欠であり、今回のスポーツ振興くじによる「不採択」という厳しい結果により、厳しい運営を強いられている。2010年まで全国の市町村に1つ以上のクラブを育成するのであれば、それなりの財源が確保できる国の事業を創設しない限り、設立するどころか消滅していくクラブが出てくることが予想される。平成17年度に向けて早急に対策を講じていただきたい。

(40) 現在、悩んでいること、困っていること

- ・財源問題
- ・魅力あるスポーツクラブにするための方策
- ・更新率の増加
- ・指導者（コーチングスタッフ）の高齢化
- ・運営委員のスポーツクラブに対する認識の温度差
- ・校区活動にともなうスタッフの確保と運営の充実
- ・特定非営利活動法人（NPO）の取得

ご協力、ありがとうございました。